



令和7(2025)年度 病害虫発生予報 第9号

令和7(2025)年12月19日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

防除日誌等から作業内容を振り返り、来年のより良い防除につなげましょう！

予想期間 12月下旬～1月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- ・現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比164%）（+）。
 - ・向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
 - ・株が軟弱徒長すると発生しやすくなるため、適正な温度管理やかん水を行う。
 - ・予防を主体とし、発病前からショウウチノスケプロアブル（RACコード F:U13・9）等を葉裏まで十分に薬剤が付着するように散布する。
 - ・曇雨天時にはくん煙剤の使用が有効だが、硫黄くん煙剤は天敵に悪影響を及ぼす可能性があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。
 - ・紫外線（UV-B）の照射は、本病の発生抑制に効果的である。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は少ない（ほ場率：平年比0%）（-）。
 - ・向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
- (3) 対 策
- ・多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
 - ・発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・予防を主体に、セイビアーフロアブル20(F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考
- ・[灰色かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ（HP）に掲載中。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比100%、株率：平年比101%）（±）。
 - ・向こう1か月の気温は高く（+）、日照時間は少ない（-）見込み。
- (3) 対 策
- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
 - ・天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいため、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておく。
- (4) 備 考
- ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比43%、株率：平年比33%）（±）。
 - ・向こう1か月の気温は高く（+）、日照時間は少ない（-）見込み。
- (3) 対 策
- ・花を良く観察して、アザミウマ類が見られた場合には、マッチ乳剤(I:15)を散布する。花の1割以上にアザミウマ類が見られる場合には、スピノエース顆粒水和剤(I:5)等を散布する。
- (4) 備 考
- ・[防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は少ない（ほ場率：平年比0%）（-）。
 - ・向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
- (3) 対 策
- ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 - ・発病した果実や葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・予防を主体に、フルピカフロアブル(F:9)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考
- ・[灰色かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ（HP）に掲載中。

6 トマト すすかび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
・現在の発生量は多い（ほ場率：平年比 198%）。（+）
- (2) 根 拠
・向こう 1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
- (3) 対 策
・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
・トリフミン水和剤（F:3）等を葉裏にもよくかかるように散布する。施設内が多湿にならないよう適切な換気を行うとともにかん水量に注意する。
- (4) 備 考 [すすかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 きゅうり ベと病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
・現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 132%）。（+）
- (2) 根 拠
・向こう 1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
- (3) 対 策
・施設内が多湿にならないよう適切な換気を行うとともにかん水量に注意する。
・草勢低下は発生を助長させるため、適正な肥培管理を行う。
・予防を主体にランマンプロアブル（F:21）等を散布する。
- (4) 備 考 [ベと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

8 トマト・きゅうり等果菜類 コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
・現在のコナジラミ類の発生量はトマトでやや多い（ほ場率：平年比 161%）、きゅうりでもやや多い（ほ場率：平年比 238%）。（+）
- (2) 根 拠
・向こう 1か月の気温は高く（+）、日照時間は少ない（-）見込み。
- (3) 対 策
・コナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窓）に 0.4mm 目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・黄色粘着板を設置して早期発見に努める。
・低密度でもウイルスを媒介して被害が大きくなりやすいため、発生初期から登録のある薬剤で防除する。特にタバココナジラミに対しては有効薬剤が限られるため、薬剤感受性検定結果等を参考にする。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・コナジラミ類によるウイルスの伝播を防ぐため、発病株は速やかに抜き取り、土中への埋設や、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・トマト黄化葉巻病の耐病性品種を作付けした場合でも、感染株は伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。
- (4) 備 考 [防除のポイントNo.22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

9 にら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
・現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 103%、株率：平年比 11%）。（-）
- (2) 根 拠
・向こう 1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
- (3) 対 策
・施設内が多湿になると発病しやすいため、日中の気温が高い時間帯に換気を行い、湿度を下げる。
・捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
・予防を主体とし、発病前からアフェットプロアブル（F:7）等を散布する。

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	平年並	にら	アザミウマ類	やや多	やや多
トマト	うどんこ病	やや多	多い	きく	ハダニ類	平年並	平年並
きゅうり	うどんこ病	やや多	多い				

季節の病害虫防除対策

○イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの状況（11月）と対策

- ・イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの越冬世代成虫の保毒虫率は県平均で4.4%と平年並、水田畠畔等における生息密度は県平均で13.6頭と平年並でした。一方、一部の地域において、保毒虫率が要防除水準の10%を超える地点が認められています。次作においても、箱施用剤の施用等、イネ縞葉枯病対策を徹底しましょう。

○トマト等 トマトキバガ

- ・トマトキバガの幼虫は植物組織内に潜入して食害し、葉では食害部の表面のみが残り、薄皮状となって白色～褐色に変色します。なお、ハモグリバエ類による食害は、片面のみが線的に変色するため裏面からは確認できませんが、本虫による食害は、葉の両面が面的に変色することで区別できます。また、果実では幼虫が内部に潜入して食害するため、表面に小さな穴ができ、腐敗の原因となります。被害の拡大を防ぐため、ほ場をよく観察し、早期発見に努めましょう。また、疑わしい虫や被害を発見した場合には、薬剤防除を行いましょう。
- ・本虫及びその被害の写真、薬剤等は、当センターHPに掲載中の[令和7（2025）年度植物防疫ニュース No. 3](#)で御確認ください。

○果樹類病害の冬期防除

- ・整枝・せん定作業では、罹病枝の除去や被害部の削り取りを徹底しましょう。処理後の切り口にはゆ合剤を塗布し、病原菌の侵入を防ぐことが重要です。また、落葉は多くの病害の伝染源となるため、放置せず適切に処分しましょう。

農薬の安全使用等

○「栃木県農薬危害防止運動」実施中（令和7年11月から令和8年1月）です。農薬は適正に管理しましょう。また、農薬を使用する際には、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防止しましょう。

○薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

○薬剤で防除する際には、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間12月20日から1月19日 12月18日 気象庁発表）

- ・寒気の影響を受けにくいため、向こう1か月の気温は、高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、少ないでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	20	70
降水量	10	40	50
日照時間	50	30	20

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧いただけます。



～栃木県からのお知らせです～

11月～翌1月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！